

建設業に働く女性を対象とした研修会 アンケート集計

設問	回答	回答数	
1. 本日の研修会は参考になりましたか	① 参考になった	22	53.7%
	②	11	26.8%
	③	4	9.8%
	④	4	9.8%
	⑤ 参考にならなかった	0	0.0%
(その要因 ※記述意見 別紙)			
3. 今後も女性の集まりを希望しますか	① はい	36	87.8%
	② いいえ	5	12.2%
4. どのような内容での開催を希望しますか(3で「はい」と回答した方) ※複数回答	① 働く意識の向上を図るための勉強会	19	27.5%
	② 女性による現場環境改善事例等の発表会	15	21.7%
	③ 発注者を交えた意見交換会	8	11.6%
	④ 協会役員等の経営者層を交えた意見交換会	5	7.2%
	⑤ 女性リーダー育成のための勉強会	8	11.6%
	⑥ 女性が主体となり実施する定期的な交流会	13	18.8%
	⑦ その他	1	1.4%
5. 職場で女性の活躍を支援・促進する取組みはありますか	① はい	21	53.8%
	② いいえ	18	46.2%
(その要因 ※記述意見 別紙)			
6. 今の仕事を辞めたいと思ったことがありますか	① はい	24	58.5%
	② いいえ	17	41.5%
(その理由) (※記述意見 別紙)			
7. 現在も仕事を続けている理由(6で「はい」と回答した方) (※記述意見 別紙)			
8. 今の仕事で働きにくいと感じることがありますか	① はい	14	42.4%
	② いいえ	19	57.6%
(その要因 ※記述意見 別紙)			
9. 各企業で実施する、女性就業者を増やすための効果的な取組みは何だと思いますか※複数回答	① 産休・育休制度の導入(拡充)	20	13.7%
	② 育児等を配慮した配置転換等の配慮	17	11.6%
	③ 時間外労働の改善	24	16.4%
	④ 休日出勤の改善	23	15.8%
	⑤ 女性リーダーの育成	7	4.8%
	⑥ 経営者や役員の意識改革	13	8.9%
	⑦ 社内の女性用トイレや更衣室の設置・拡充	3	2.1%
	⑧ 現場の女性用トイレや更衣室の設置・拡充	10	6.8%
	⑨ 育児等に配慮した内勤の短時間労働や在宅ワーク等の導入	16	11.0%
	⑩ 育児等に配慮した現場の短時間労働(10-15時迄の現場補助業務等)の導入	10	6.8%
	⑪ その他(記述意見は別紙)	3	2.1%

(別紙) 建設業に働く女性を対象とした研修会 アンケート記述意見

2. 本日の研修会で特に印象に残った内容

- ・ 稲田氏の話聞き、女性が働くということについては、建設業だけでなく他産業も発展途上だと感じた。
- ・ 県内に女性技術者がたくさんいることに嬉しくなった。
- ・ 上司に（仕事の）相談をするときは、自分の考えを出して相談する。
- ・ 富山の建設業に女性が多い事。
- ・ 稲田さんのお話が印象に残った。
- ・ グループワークで、皆が熱い思いを持っていたことに驚いた。人生の目的「繋がり」に、仕事は大事だと思った。たくさんの人に出会いたい。若者の建設業での人手不足は私も感じており、とても重要な問題だと再認識した。
- ・ 座談会。他企業の仕事内容、雇用状況、就業意識等を情報交換できた。
- ・ グループワークで実際に現場で働いている女性の方の話聞いて楽しかった。技術職の方は目標が合って素敵だと思いました。
- ・ 他企業の女性の働き方。
- ・ 先輩の意見。
- ・ 業界内で同じように働いている他社の女性との話。
- ・ 自分と同じ考え、違う考えがあり、相手の立場で共感できるようになることも必要だということ。
- ・ 男性中心の社会の改善と休日・残業の見直しが必要な事。
- ・ 日本の女性の雇用に関する話。
- ・ 人との出会い、繋がりを大事に、働く意味、生きていく意味。
- ・ 女性技術者の人数に驚いた。
- ・ 稲田さんの経歴。
ほか、講演会3件
- ・ 会社による働きやすさの違いが分かり、もっと頑張ろうと思えたので、グループワークはとても良かった。企業規模や仕事内容も違う会社だけど、思うことは一緒だと感じた。
- ・ グループワークにおいて、今後の建設業で何をするか考えることができた。
- ・ グループワークで他社の方と意見を交換できた。
- ・ 他社の女性と話ができた。
ほか、グループワーク6件
- ・ 様々な年齢、経験を持つ方が集まっている。
- ・ 女性や若者を増やすために何をするか、今後の採用関係に役立てたいです。

5. 職場における女性の活躍を支援・促進する取組み

- ・ 子育て支援のための宣言（に加入）。男女ともに育休あり。
- ・ 育児休暇 6件
- ・ くるみん認定 2件
- ・ トイレ等の環境改善。
- ・ 家庭の両立をしてくれる上司。残業時間や早退・遅刻への理解。
- ・ 仕事内容に差を付けない。
- ・ 特別な取り組みはないが、コミュニケーションをできるだけとるようにしている。
- ・ 産前産後休暇 4件
- ・ 福利厚生を充実させている。
- ・ 夏の作業服が、ボディラインの出にくいものに変更された。
- ・ 女性に限ったことがない。資格や働き方は男女同じ。

6. 今の仕事を辞めたいと思った理由

- ・ 現場仕事。
- ・ 上司からの嫌がらせ。
- ・ 寒い・暑い中、1日中そのにいろのがつらい。現場が男性向け。道具や雨具、長靴などのサイズがなく作業しづらい。休みづらい。
- ・ 休日が少ない。
- ・ 残業が多く、自分の時間がとれなかった。
- ・ 女性を理由にされたこと。
- ・ 同僚女性との人間関係。
- ・ 育児との両立。
- ・ 休みが極端に少ない時期。
- ・ 家族が入院した時、労働時間の関係で支えになれなかった。
- ・ 上司や同僚に対しての個人的感情で。
- ・ 仕事の評価がされづらく、風当たりが強いとき。
- ・ やりがいを感じれなくなったときにそう思った。
- ・ 長時間残業が続いた時。
- ・ 仕事内容が難しい。
- ・ 多くの仕事を任せられ、何の業務をするために入ったのか分からなくなったことがある。
- ・ 責任ある仕事が、自分にできるのか不安になった。
- ・ 現場での仕事がつらい。休みが少ない。
- ・ 子供を産んだとき。
- ・ 男女格差。後輩の男性が私より給与が良い。男性への期待が大きく、自分は期待されていないのが明らかである。
- ・ 時間外労働。
- ・ (回答なし)
- ・ (回答なし)
- ・ (回答なし)
- ・ (回答なし)

7. 現在も仕事を続けている理由

- ⇒ ・ 達成感がある。
- ⇒ ・ この仕事が楽しいから。
- ⇒ ・ 会社の人とのつながりがある。次の仕事が見つからない。
- ⇒ ・ 外で仕事ができる。色々なつながりを持つて。
- ⇒ ・ 仕事内容は楽しくやりがいがある。
- ⇒ ・ 周囲から必要とされていたため。
- ⇒ ・ 上司に相談したところ、資格を活かしての配置転換を勧められ、異動。感謝しています。
- ⇒ ・ 資格や経験を活かすため。
- ⇒ ・ 一時的な繁忙だった。
- ⇒ ・ 家族が入院した際、現場の所長が「仕事より家族のサポートをなささい」と言ってくれた。今でも家族の様子を伺ってくれる。他の社員も心配や相談にのってくれ、家族のような暖かさがあるため、今でも現場でがんばれている。
- ⇒ ・ 再就職は無理な年齢のため、現状維持。
- ⇒ ・ 再就職が大変。しても給料が下がる可能性がある。愚痴をこぼし合える人がいてストレス発散ができる環境があった。
- ⇒ ・ 自分なりのやりがい、自分しか気づけないことを探し出せた、気づかせてもらったので、今も続いているのだと思う。
- ⇒ ・ 仕事が少しずつ好きになってきたので。
- ⇒ ・ まだ入社したばかりだから。
- ⇒ ・ 配偶者、家族の応援。上司がチャンスを与えていると思えた。相談者がいる。
- ⇒ ・ たくさん悩みもあるが、とてもやりがいのある仕事だと思うから。
- ⇒ ・ 現場から内勤にかわった。
- ⇒ ・ 様々な業種の方との出会いもあることで、産休中に自分自身の人生の中で仕事がいかに大切なのかを改めて感じたため。
- ⇒ ・ (回答なし)
- ⇒ ・ (回答なし)
- ⇒ ・ 他業種からの転職で、建設業で働く人達の元気さ、明るさに何度も救われました。
- ⇒ ・ 建築が好きだから。
- ⇒ ・ 周りに相談する人がいて助けられた。

8. 今の仕事で働きにくいと感じたこと

- ・ 体格や体力的にできないことが多い。トイレがなく、現場にづらい。
- ・ 休日が少ない。現場作業後のデスクワーク等が大変。
- ・ 男性が動かない。女性がするのが普通という考え。
- ・ 女性が少なく、コミュニケーションがとりづらい。
- ・ 休みがとりづらい。
- ・ 将来の自分の姿が想像できない。
- ・ 若手がいない事。
- ・ 体力は男性に勝てない。残業が当たり前（現場後にデスクワーク）。
- ・ 体力の限界を感じた時。残業で帰りが遅くなる時。
- ・ 本当に会社は女性を現場管理として使いたいのか疑問である。
- ・ 社内でのコミュニケーション不足。
- ・ トイレ等の衛生面。
- ・ 女性用のトイレがない現場のとき。

9. 各企業で実施する、女性就業者を増やすための効果的な取組み（記述意見）

- ・ 性別に関係のない仕事の割り振り・評価。女性対象の研修も良いが、経営者・役員層の意識改革が一番重要だと思う。
- ・ 女性リーダーには1人ヘルプを付けた方が良い。
- ・ 建設業に働く女性について、周りの人が知る機会をつくる。ポスター、CM、講演会等。